

「足利義満の国書」の内容とは (勘合貿易・日明貿易)

足利義満（あしかがよしみつ）が
明（みん）の皇帝へ送った国書（こくしょ）の内容

原文（もとのままの文）（善隣国宝記）

日本准三后（じゅさんごう） 某（それがし）、書を大明（だいみん）皇帝陛下（こうていへいか）に上（たてまつ）る。

日本国開闢（かいびやく） 以来（いらい）、聘問（へいもん）を上邦（じょうほう）に通ぜざること無し。

某（それがし）、幸にも国鈞（こっきん）を乗（と）り、海内（かいだい）に虞（おそ）れ無し。

特に往古（おうこ）の規法（きほう）に遵（したが）ひて、肥富（こいつみ）をして祖阿（そあ）に相副（あいそ）へしめ、好（よしみ）を通じて方物（ほうぶつ）を献（けん）ず。

金千両、馬十匹、薄様（うすよう）千帖（じょう）、扇（おうぎ）百本、屏風（びょうぶ）三双、鎧（よろい）一領、筒丸（どうまる）一領、劔十腰、刀一柄、硯筥（すずりばこ）一合、同文台（ぶんだい）一箇。

海島に漂寄の者の幾許人（いくばくにん）を搜尋（そうじん）し、これを還（かえ）す。

某（それがし） 誠惶誠恐（せいこうせいきょう） 頓首（とんしゅ）々々 謹言。

応永8（1401年）年5月13日



【用語の説明】

准三后・・太皇太后（たいこうたいごう・先祖代々の天皇の皇后のこと）、皇太后（こうたいごう・ひとつ前の天皇の皇后のこと）、皇后（今の天皇の皇后のこと）と同じ扱いをすること。

某・・自分のことを差す言葉で、目上の人に対して使う言葉。

大明皇帝陛下・・この時、明の皇帝だった2代皇帝「建文帝（けんぶんてい）」のこと。

開闢・・「始まった」という意味

聘問・・礼物（れいもつ・お礼として差さし上げる物）を持って訪問すること。

上邦・・中国のこと

国鈞・・国の政治のこと。

海内・・四海（しかい）の内のこと。四海とは、天下のこと。つまり、日本国内の天下のこと。

肥富・・博多の商人のこと。

祖阿・・義満の側近（そっきん・そばで仕えていた人のこと）

方物・・その地方ならではの土産のこと。

薄様・・薄くすいた、鳥の子紙（こがみ）のこと。

帖・・薄いものを数える時の単位。

筒丸・・胴丸のこと。胴丸とは、歩兵用の簡単な鎧のこと。

海島に漂寄・・ここでは、日本に中国（明）の人が漂流してたどり着いた場合のこと

幾許人・・若干名（じゃっかんめい・少しの人数の）のこと

搜尋・・尋ねて探し出すこと

誠惶誠恐・・この上なくかしこまること。

頓首・・手紙の終わりに書いて、相手に敬意をあらわす言葉。

※善隣国宝記とは、瑞溪周鳳（ずいけいしゅうほう）という僧が書いた日本の外交を記録したもの。



口語訳（今の言葉に直したもの）

日本では、天皇の皇后（こうごう）と同じような扱いの私が、建文帝（けんぶんてい）さまに国書（手紙）をお送りします。

日本は国が始まってから今まで、あなたの国（中国）にお使いを送らなかったことはありませんでした。

私は、幸いにも（ラッキーなことに）政権（政治をする上での権力）をすべて握っています。日本国内のものは、誰でもが私のいう通りに動きます。というわけで、古くからのルールにしたがって、肥富（こいつみ）を祖阿（そあ）に連れていかせて、親交を結ぶ（仲良くすること）ためにお土産を持っていかせます。

お土産の内容は、

1000両のお金、馬が10匹、薄様が1000帖、扇が100本、屏風が3双、鎧が1領、胴丸が1領、剣が10腰、刀が1柄、硯箱1合と、同じく文台1箇です。

さらに、明（みん）の方で、日本に漂流してたどりついた数人の方を探し出したので、送り届けますね。

私は、あなたに対してこの上なく恐れかしこまって、敬意を表して申し上げます。

ザックリいうと??

足利義満「私（義満）は日本では皇后さまレベルの扱いだし、今や日本中は私のいう通り状態。

なので、（そんな力を持っている私なので）皇帝さまと仲良くなりたくてお使いにお土産を持っていかせます。

宜しく申し上げます！」



明の皇帝からの返事

原文（もとのままの文）（善隣国宝記）

朕（ちん） 大位を嗣（つ）ぎてより四夷（しい）の君長朝献（ちょうけん）する者十百を以て計（かぞ）う。

苟（いやしく）も大儀に戻るに非（あら）ざれば皆例を以（もつ）てこれを撫柔するを思う。

ここになんじ日本国王源道義（げんどうぎ）、心王室に存し、君を愛するの誠を懐（いだ）き波濤（はとう）を踰越（ゆえつ）し、使を遣（よこ）して来朝し、…朕（ちん）甚嘉（よみ）す。

…今使者道彝一如（どういいちによ）を遣し、大統曆（だいとうれき）を班示し、正朔（せいさく）を奉（ほう）ぜしめ、錦綺（きんき）二十匹を賜（たま）う…

建文4年（1402年）2月初6日

【用語の説明】

朕・・・自分のことを差す言葉。

大位・・・高い位のこと。

嗣ぐ・・・位を継ぐこと。

四夷・・・古代中国で、自分の国を中華というのに対して、中国のまわり4方向に住んでいた異民族のことを四夷と呼んだ。（ちなみに「四夷」は、相手をさげすんで言う呼び方）

君長・・・君主（リーダー）のこと。

朝献・・・お土産を持って挨拶をしに来ること。

苟も・・・少なくとも

大儀・・・大儀は「大変なこと、面倒なこと」だが、ここでは「大義」の人としての道理（正しい道）のこと。



- 戻る・・・ここでは「そむく」という意味をもつ「もとの」として使われている
- 撫柔・・・憐んで、心配してあげること。
- なんじ・・・相手のことを差す言葉。（「おまえ」のイメージ）
- 源道義・・・皇帝から与えられた称号。室町幕府将軍が外交をする時の称号として使われた。
- 波濤・・・大きな波。
- 踰越・・・乗り越えること。
- 嘉す・・・嬉しい、ということ。
- 道彝一如（どういいちによ）・・・明から送られた使者の名前
- 大統暦・・・中国で使われていた暦のひとつ。
- 正朔を奉ずる・・・中国の暦法を守ることで、中国の臣下（属国）になること。
- 錦綺・・・あやぎぬ。あや織の絹。つまり織物。
- 賜う・・・目上の人が目下のものにもものを与えること。

口語訳（今の言葉に直したもの）

私が即位してから、たくさんの周辺諸国の長たちが朝献してきた。
人としての道を外していなければ、そのすべてを礼をもって対応しようと思う。
今、日本国王の源道義（義満）が、明の王室への敬意と君主への忠誠をもって海を渡り、使いを送ってきた。
…私はとても嬉しい。
…お返しに、明からは道彝一如を使いとして送り、日本を明の臣下として、大統暦や織物を与える。



ザックリいうと？

建文帝「ワシが即位してから、周りの国のトップがどんどんお土産をもって挨拶に来てる。

まあ、変な事するヤツじゃなければ、みんなちゃんと対応してやった。

今も、日本国王の義満が、明に忠誠を誓ってはるばる海を渡ってお使いを送ってきたワケだ。

嬉しいことだね。

お返しに、中国の暦法と、織物をやろう。

そして日本を明の臣下として認めてやるぞ。」

この頃の中国は大国だったんだ。

でも、この「日本が中国の属国になった」ということが、朝廷の人々から反発を受けたんだよ。

このことで、義満に対して良く思わない人々もいたとのことだよ。

